

平成29年8月10日

## 認知症の人とその家族の支援体制の構築及び認知症のケアの向上を図るための取組みの推進

一緒に考え行動すると生活に根差した自主的なアクションに！

キーワードは 知る・つくる・広げる・続ける “つなぐ”



新潟県湯沢町健康福祉部

健康増進課 保健師 國松明美

# 湯沢町の認知症支援の特徴



認知症の本人・家族、地域、関係機関、行政の協働活動



みんなで話して企画する(アクションミーティング)がパワーを生む  
(生まれる・広がる・続く・つながる)



認知症の本人・家族に支援が届く  
(地域の人々が支援につなぐ)



人が、事業が、組織が・・・つながる・広がる・元気になる  
(いろいろな世代が、高齢者以外の事業や組織が職員が)

地域の現状と将来、本人・家族・地域・職員、みんなを大事に

# 新潟県湯沢町の紹介

湯沢町(ゆざわまち)は、古くから温泉場として知られ、川端康成の小説『雪国』の舞台、近年ではフジロック・フェスティバルの会場でもある苗場スキー場がある。湯沢町は緑豊かな自然に抱かれた町



面積: 357.00km<sup>2</sup> (94%が山林) 群馬県境の苗場まで町中心部から車で30分

(湯沢地区、神立地区、土樽地区、三国地区、三俣地区)

気候: 初雪11月中旬, 雪解け4月中旬

積雪量 3m前後 約半年は雪との生活

人口: 8,163人 65歳以上2,877人 高齢化率35.24%(平成29年3月末)

マンション人口は総人口の約1割、マンション居住高齢者が増えている

介護保険(第1号被保険者)認定率: 14.04% (県18.62% 全国17.95) 29年2月末

介護保険料5,000円/月 (県内最低) 新潟県平均5,956円/月

介護保険事業所(町内): 通所介護3、訪問介護1、特養1、小規模多機能1 認知症共同生活介護1、短期入所1、療養型(50床)

医療機関: 湯沢町保健医療センター(公設民営)

認知症サポート医1

日常生活圏域 1 地域包括支援センター 1(直営)

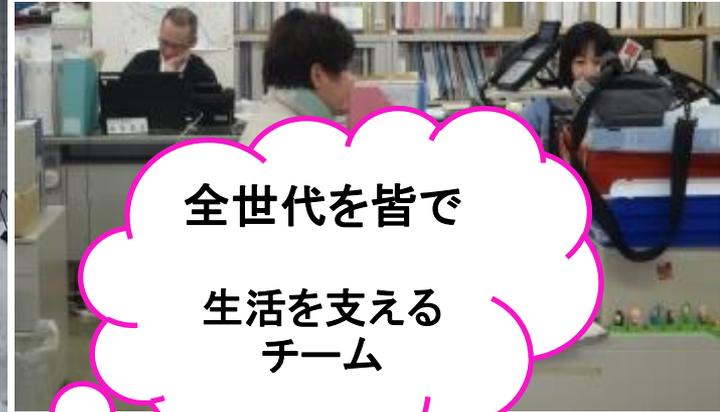
## 湯沢病院



## 湯沢町社協



## 湯沢町健康福祉部 健康増進課・福祉介護課



全世代を皆で

生活を支える  
チーム

## 健康増進課

【保健センター、地域包括支援センター（直営）、町立病院管理】  
課長（係長兼務）1人、保健師7人、主任ケアマネ1人、栄養士1人、事務職1人

保健師は地区・全世代を担当（包括支援センター・保健センター兼務）  
認知症地域支援推進員5人（保健師兼務3・主任ケアマネ兼務1・パート看護師1）

保健セ  
ンター

地域包  
括支援  
セン  
ター

居宅介  
護支援  
事業所

介護  
保険

福祉

町立病  
院管理

13年度	18年度	20年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
高齢者のこころの相談会								(事例検討会に変更)		
訪問支援員								在宅看護師追加		
	認知症支援検討チーム									
	元気パワーアップ倶楽部									
	小規模多機能・GH									
	お達者倶楽部(小規模委託)									
	メイトサポーター養成	じよんのび		医療介護連携	中	生・SOS訓練参加者・広報		マンション 管理人	ネクスコ東日本 児童クラブ	商工会見守り 拠点(予定)
		認知症地域支援実態調								
				認知症施策総合推進事業(国補助10/10)						
				アクションミーティング	アクション農園	研修医・看護学生	フジロック アクションGB			
					ブログ					
					かわら版					
						SOS訓練(湯沢)	(神立)	(土樽)	(中子添名堰場) 小規模多機能と協働	
							認知症ケアパスアクションミーティング	ケアパス周知・活用		
				認知症疾患医療センター事例検討						
				かたり湯9月~11	5月開始月1回					
				傾聴ボラ						
				センター方式基礎研修	センター方式フォローアップ					
				虐待不適切ケア						
				介護者家族交流会1回	介護者家族交流会年4回	介護者のつどい最終週金				
				男性介護者支援(美味しんぼ)						
				認知症地域支援推進 員研修(中嶋平智)		(鈴木)	(国松)	(山岸)		
								初期集中支援 チーム チーム員研修(國 松・鈴木) サポート医(湯沢)		

アクション  
ミーティング

平成15年度から健康  
づくりに関して住民と  
の協働活動を開始



# みんなで話して企画する

地域の仲間・知人、同級生、行政の関係者、  
介護・医療職の関係者、などなど

湯沢町の認知  
症支援が変化  
したきっかけ

認知症の人と、家族と  
ともに暮らせる地域をめざして

それぞれが声かけあって集まってみる  
話し合ってみる  
☆立場を越えて

伸びのびと  
話合う

出会い、アイデア、力、つながり、元気、  
安心、希望、 自分たちで生み出す

やりたいことが一致した人がチームを組んで  
できることから、いっしょにアクション！

# 23年度認知症支援アクションミーティング後、24年度から始まった活動

アクション  
農園倶楽部

おひさまの会  
傾聴とは  
こころをよせること

寄合どころ  
お茶の間広場

高齢者  
お役立ち  
かわら版

つなぐ

かたり湯

行方不明探索訓練

認知症ケアパス



アクション  
ミーティング

Happy!



ちょっと一緒に動いてみると、  
思いがけない支えあいやアイデアが広がる！

うれしい！ 楽しい！ 伝えたい！⇒つながりが自己増殖  
想像以上に生き生き！⇒私にできることある？やりたい！

認知症・みんな一緒



少しでも工夫したこと

知る・つくる・広げる・続ける

“つなぐ”

 みんなで話す。発言の背景(どういう思いから・・・思いを大事に、  
思いを共有して・・・)

具体策を皆で考える、文字にする、プランをつくる、合意

 それぞれが活動のメンバー 一緒にプロセスを共有  
変化、発言、行動など気づいたことを言葉にして共有し、参加  
者の笑顔につながるアクションへ随時変更

 記録する。情報をもらう(自分の関わる中で把握した情報  
だけで判断しない)情報をつなげていろんな姿を知る、知  
ろうとする、共有する

 アクション農園倶楽部と認知症行方不明探索訓練について  
少しご紹介します

アクション名の意味：苗を植え作物を大きくするところにかけて、小さなコミュニティから大きなコミュニティになってほしいと願ってつけました

### 【アクションの内容】

- ・朝市や無人販売所で収穫の喜びを感じてもらう
- ・町内に回覧版を回し、部員・顧問・農地を貸してくれる人を募集する
- ・畑に目立つ看板をたてる
- ・自分たちが育てたい苗を持ち寄る
- ・曜日は決めるが誰が来てもいい
- ・畑に椅子やテーブルを置き、昼食をとったりお茶をしたりする
- ・ダッシュ村のようなシステムを目指す



### 【アクションの目的(アクションを通じて目指したいこと・生み出したいこと)】

- ・閉じこもりや老若男女が外に出て陽に当たり汗をかき元気になり笑顔になる
- ・地域の人やマンションの人、誰もが区別なく話ができる

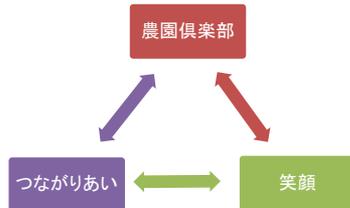
### 【アクションのつながり(こんな人・立場・分野の人)】

- ・農地を貸してくれる人・広い意味で(いろいろな面で)お世話をしてくれる人 ・町長



### 【アクションを話し合ってきたグループメンバーからメッセージ】

※外に出て、陽の光を浴びて汗をかきましょう！



毎週火曜日午前9時から収穫や草取りなどの畑作業をしながら交流しています。様々な世代、背景の方が参加しています。毎回畑の作物を食べながら休憩しています。おいしいですよ～。一緒に活動してくださる方を随時募集しています。(年齢は問いません。子どもからお年寄りまでどなたでも畑未経験者でもOK。ちょっとしたお手伝いだけでもOKです。立ち寄っておしゃべりしていただいてもOKです。

場所は栄町のAコープ側です。看板があります。

連絡先：湯沢町健康増進課(地域包括支援センター)

電話784-3000 農園 団長 丸山080-5459-1009

<http://yuzawa.cc/now/> ブログもご覧ください

認知症の人もそうでない人も、いろいろな世代・立場や職種を越えて、地域の中で出会い、話しあい、共に汗を流す楽しい体験を重ねながら・・・

畑で作物をつくることが目的ではありません

認知症の人もそうでない人も本音と各自の底力を出し合いながら馴染みの関係をつくって・・・

## アクション 農園倶楽部

地域(近所・お友達等)から支援が届く

認知症の理解が地域に広がる

体験

つながりあい

笑顔



活躍できる場がある、喜んでもらえる、食べる喜びも、作物の成長も楽しめる、何しててもいい、いろんな世代と話ができる.....





～外出を見守れる町、安心安全な外出ができる町を目指して～

## 【長期目標】

地域の認知症理解を広め、外出を見守り、認知症の人が自分の暮らす生活の場へ戻れる対応ができる

## 【短期目標】

1. 住民と関係機関、行政が協働で認知症SOS探索訓練を企画し実施することで地域の認知症理解者が増える

自分の事として考える人を増やしたい・・・

啓発

2. 行方不明時の早期発見・対応の課題を明らかにする  
体験として覚え行動できる 使える手順書を作成する

動けるマニュアル  
訓練しながら変えていこう！

# 28年度訓練の様子



嫁さん

健康福祉部職員



町長



湯沢学園  
(保育園・小中学校)



長男役  
「シナリオがあっ  
ても混乱し  
た……」

体験が人の気持ちを動  
かす！

やってみないとわからな  
いことがたくさんある！



## 認知症の本人・家族に支援が届く

(地域の人が支援につなげる)

事例

63歳で認知症となり、プロとして信頼を得ていた仕事を辞めた

介護者は極わずかな友人に夫の認知症のことを打ち明けていた。

介護者限界！（できないことが増えている、行方不明、離れられない）

町の取り組みを知っていた友人が本人の見守りをし、介護者が相談先に行ける時間を作った。

医療にはつながっていたが生活支援の相談にはつながっていなかった（診断から3年）

介護者：「嫌な思いはしたくない」「特別な目（色眼鏡）で見られたくない」「本人を傷つけたくない」「町の中では買い物をしたくない」

本人は介護者に記憶を保つための訓練をされることが嫌だった

本人はいつもの散歩の延長で近所の人とアクション農園に歩いてくる。その後もっといろんな場所に参加したいと介護予防事業を追加（ご近所の知人がスタッフ）

介護者は平成27年度訓練に参加し地域の支援や仕組みを知った

28年度秋より小規模多機能のサービスにつながる

28年12月25日（クリスマス）に行方不明になる

携帯電話は契約していたがモバイルネットワーク契約は未契約だった



# 認知症の本人・家族に支援が届く

(地域の人が支援につなげる)

事例

## 《この事例での課題》

- ✓ 若年性認知症の人の存在(情報)が相談機関に届いていなかった
- ✓ 介護者は自分なりに進行を防ぎたいと努力していたが限界を感じていた
- ✓ 地域の中での偏見を心配し本人も介護者も孤立していた
- ✓ 地域の支援(情報)が介護者に届いていなかった

## 《この事例で良かったこと》

- ✓ 介護者は認知症の診断を受ける前からの友人に話をすることができた
- ✓ 友人は福祉関係機関の活動を通じて、町の認知症の取り組みや窓口を知っていた(相談窓口や活動を知っている人が身近にいた、町の活動を理解している人がいた)
- ✓ 友人は介護者の気持ちを理解し介護を変わり時間を作って相談に行けるようにした

## 一緒に地域で暮らしている人が支援につなげる

- 町の認知症の取り組みに参加していた事業所を通じ友人が情報を介護者につなげた
- 友人は窓口の情報を伝えるだけでなく、介護者が相談に行けるように具体的な支援をした

町の取り組みを知ってる人が地域に一人でも多くなると支援が届く(つながる)



## 認知症の本人・家族に支援が届く

(地域の人が支援につなげる)

事例

### ご本人の様子

- 出る場所ができて楽しいよ！ 毎週火曜日が楽しみなんだ！
- 本人が地域の活動に参加していることを主治医（認知症疾患医療センター）に伝えると主治医は？（伝えていたのだけれど）
- 本人が 温水健康体操（介護予防事業）「冬は水が冷たいから休みたい。」と伝えた⇒介護者は本人が自分で判断し、スタッフに伝える力があることに驚く。
- 行方不明後GPS機能を活用できる携帯電話を持つ（本人は通話よりも介護者と出かけた時に写真を撮りそれを話題に話すことを楽しんでいる、常に持ち歩いている）

ある日、職員が携帯電話について本人に「それはなんですか？」と問うと、

「これは自分がいなくなってしまうときにみんなが捜してくれる物なんだよ。安心なんだ。」と。

4年前に病気になって  
今はこうして  
周りに支えられて生活している  
それがうれしい  
自分のことを  
いろいろな人に知ってもらって  
これからも支えてもらい  
見守られながら  
生活していきたい





# 認知症の本人・家族に支援が届く

(地域の人が支援につなげる)

事例

Aさんの言葉から一緒に過ごしている人達が気づいたこと、思い・・・・・・・・

- 本人の思いは「本人」に聞かないとわからない 家族の気持ち=本人の思いではないこと
- 本人が医師から認知症と告知されてからの気持ちの変化（戸惑い 混乱 受け入れ）に思いを巡らせ、本人を理解したいと思った
- 関わっている人たちは本人の思いを知って自分自身の気持ちが動き、自分のこととして、何かできないか（できること）を考えたいと思った（立場上できること、立場を離れ一人の人としてできること）
- 関わっている人たちは本人の思いを知って認知症のイメージが変わった（感情の豊かさ 自分自身で考えている 願いがある 想像を超えた葛藤を経験している）
- 介護事業所は良くないな～自分だったら利用しないと思っていたサービス内容とイメージを変える必要性があること
- 介護サービスを利用することが本人にとって窮屈な思いにならないようにしたい
- 介護サービス事業所どうしが事業所を超えて〇〇さんについて協力をしたい町の中で一緒に生活しているみんなで見守りたい
- 家族（介護者）の世間に対する思い 認知症の〇〇さんへの思い



## 認知症の本人・家族に支援が届く

### (地域の人々が支援につなげる) 事例

この思いをAさんと関係のある支援関係者が共有し、「道しるべ」ができました

- ◇ 主体は本人であることを常に意識する (認知症の人に何かできるかではなく、認知症の人と何ができるか)
- ◇ 誰のため、何のための支援 (サービス・事業) なのか考える
- ◇ 本人の思いに沿った支援ができているのか振り返る (繰り返す)
- ◇ 家族の思いに沿った支援ができているのか振り返る (繰り返す)
- ◇ 町の中で一緒に生活しているみんなで見守る・協力し合う (認知症はヒトゴトではなくジブンゴト)
- ◇ 認知症があっても思いは一緒、普通に、自然に・・・ (社会の一員として役に立ちたい)





# 認知症の本人・家族に支援が届く

# 認知症の取り組み5年目の効果(連携・協働・ネットワーク)



認知症の本人・家族に支援が届く

(地域の人が支援につなげる)



人が、事業が、組織が・・・つながる、広がる、元気になる

(いろいろな世代が、高齢者以外の事業や組織が、職員が)

## 【介護者】

- ・ 町内会総会で見守りの協力を求めた
- ・ 介護者が衣類などに記名するようになった
- ・ ケアマネと一緒に見守りマップをつくった
- ・ 介護者がスタッフに気持ちを話すようになった

”自分事”⇒**行動化**

## 【住民】

- ・ 自身の住む町内の会合で訓練時のチラシを配布
- ・ 町内のサロンで配布し参加しない家には訪問
- ・ 「行方不明の心配がある人が町外に向かって歩いている！」  
訓練で立ち寄った地域→社協→健康増進課⇒行方不明になる前に発見
- ・ 「いつもと違うスピードで歩いているけど大丈夫かな」
- ・ 「普段から気軽立ち寄れて、相談できたり、いつもと違う様子に気づけたり、いざという時に情報が集まっている場を地域にたくさん作ろうよ」



# 認知症の取り組み5年目の効果(連携・協働・ネットワーク)



認知症の本人・家族に支援が届く

(地域の人が支援につなげる)



人が、事業が、組織が・・・つながる、広がる、元気になる

(いろいろな世代が、高齢者以外の事業や組織が、職員が)

”自分事”⇒行動化

一人一人の生活を支える

## 【介護サービス職員】

- 行方不明になる恐れのある人のサービス提供時間以外の安全を意識して見守りマップを作成・**〇〇さんの生活**を見守る視点
- 本人に話を聞くようになった
- 行動の理由をスタッフで考えるようになった
- ケアプランに位置づけ根拠、目的、評価を共有するようになった
- 町全体の事業所が本人主体の支援ができるように他事業所の研修の講師をした
- 自事業所の利用者ではない人に声をかけ自宅へ送り届けた

# 認知症の取り組み5年目の効果(連携・協働・ネットワーク)



## 認知症の本人・家族、地域、関係機関、行政の協働活動

あるものを使う・つなぐ

一人一人の生活を支える

地域ケア会議  
医療介護連携会議

介護予防事業

仲間

サービス事業所  
社会福祉協議会  
小規模多機能・グループホーム  
特養併設通所介護  
通所介護  
町外居宅事業所

入居者  
利用者

本人・家族  
町内会長  
民生委員  
ボランティア協議会  
地域住民  
商工会  
ミーティング参加者  
消防団

子育て支援  
保育園・学校

ファミリー健康  
プラン推進委員

対象地区以外  
の住民

認知症カフェ

認知症ケアパス

行政  
福祉介護課  
健康増進課  
総務課(防災担当)

かたり湯

農園

医療機関  
介護職員  
研修医  
医学生と指導者

議員

SOS訓練

初期集中支援  
チーム

認知症サポーター

高速道路  
管理会社

県庁  
保健所

県内外他  
市町村

携帯電話会社  
(GPS)

警察

新聞販売店

報道機関  
FM

東京センター

JA

郵便局

“湯沢町ファミリー健康プランメインスローガン

「自然を大事に、人にやさしい、ふれあいのある元気な町



推進員として……

認知症について正しく理解し、支援してくれる人が一人でも多くなるといいな～

☆一緒に過ごすこと(体験)が認知症理解の早道!!

多くの人に参加してほしい

体験が人の気持ちを動かす

聞いただけでは気持ちが動かない。  
一緒に過ごすといろんなことに気づき  
自分ごととして考え始める

動き始める

変化が見える形に  
充実感・達成感・期待感・  
満足感

ひとりでしない！仲間を  
増やして楽しもう！！





楽しい企画をみんなで考えながら

「こうなってほしい」方向性を掲げて  
(あきらめない、ゆらがないで)



もっと暮らしの中で楽しく。認知症の人と自然にふれあい、  
地域で支えあって暮らす可能性の実感、小さな成功体験を  
みんなで共有して・・・

## 【目的】

認知症地域支援推進員は地域で暮らす最も大事な資源「認知症の本人」とその家族、地域住民との関係をつくり、地域で支え合える資源を地域で構築する仕掛けをつくる

## 【目標】

- 1、事業内容が参加者の語る思いや意向を元に参加者と共に作り上げられるものになる
- 2、地域資源ができる
- 3、地域資源同士がネットワークをつくることで資源が広がる
- 4、地域資源の内容が本人家族地域の必要とするものになる

## 【方法】

行方不明探索訓練、初期集中支援チーム、農園、かたり湯等認知症に関わる活動は主に認知症地域支援推進員が企画案を作成する。

企画段階から部内や関係機関と協働することで認知症地域理解（地域づくり、人材育成）につなげる。

介護と医療等の個別連携は地区担当保健師が窓口になり推進員が支援する。

介護と医療等関係機関とのネットワークや体制づくりは地域ケア会議の場を活用し事業担当保健師と推進員が実施する。

## 【評価】

1. 認知症の人と家族を支援する支援が増える⇒  
地域の人が資源に
2. 地域資源が本人や家族の望むものになる⇒  
支援者の意識が本人に向かうようになってきた
3. 資源がつながる⇒  
事業所や事業が事例を通じてつながりはじめた  
⇒  
多世代の活動とつながりはじめた

## 【方向性】

目的・目標達成に向けて活動継続です

アクションミーティングのアクションを始めて6年、行方不明訓練は5年目……  
今年度は推進員みんなで振り返りをしようと思います。

## 全国の推進員へのメッセージ

- ベースの職種がある 役割がある そのうえで兼務・・・追加された仕事と思わない
- ベースの役割の中でちょっと意識して工夫する ……今、していることとつなげて
- ヒントは地域にある 住民の力を信じる コントロールしようとしなない 立場は一緒(仲間)
  
- その場、その時で理解を得やすい立場で行動しちゃう
- 一つ一つの変化を大事に、ひろって、まとめる。数値で表しにくい活動だけど地域の人声や反応は理解を得やすい。
- やってきたことを見える形に残す(かわら版・ダイジェスト版)
  
- 推進員としての行動計画書は必要。市町村、委託先、推進員が話し合い合意形成したもの。推進員の役割を理解してもらうために、推進員としての自分のためにも。
- 小さなことから少しずつ 気心の知れた人たちとまずは始めよう
- 種をまく 育つのを待つ



ひとりでしない！仲間を増やして楽しもう！！

29年度農園開園！

みはる

み  
の  
る

ま  
も  
る

ママたちは畑に入っ  
てリフレッシュ！

子ども達の見守  
りは子育てのベ  
テランさん！





仲間たち



29年度開園式  
みんなで記念撮影

カラス対策  
カラスは字が読める？





「畑まもる」君に家族が増えました！

ピンクのつなぎは団長からのプレゼントです！

ご静聴ありがとうございました。  
できることから少しずつ……